

【 10月の予定 】

5日(木)： にこにこサロン 10:30～
 9日(月)： 国立療養所 長島愛生園
 視察研修会 8:20 出発
 10日(火)： スマホ教室 10:00～
 14日(土)： 作品づくり 9:00～
 子ども料理教室 11:00～
 19日(木)： にこにこサロン 10:30～
 23日(月)～27(金)： 花の寄せ植え教室

今月の人権カレンダー

10月 仕事と家庭を考える月間
 2日： 国際非暴デー
 11日： 安心・安全なまちづくりの日
 13日： 国際防火デー
 15日： 助け合いの日



視察研修会

国立療養所「長島愛生園」に行きましょう

日 時： 10月 9日(月・祝日) 8時20分出発
 場 所： 国立療養所 長島愛生園
 参加費： 昼食代として1人 2,200 円
 (当日集金)

※参加ご希望の方は、
 下記へお問い合わせください。お待ちしております。
 はばたき人権文化センター
 電話/FAX： 22-0232



鳥取県では、1936年に就任した立田清辰知事を先頭に、県内にハンセン病患者が一人もいないようにする「無らい県運動」を積極的に繰り広げ、長島愛生園に鳥取県出身者の収容所を作るための寄付金を募ったり、患者家族を視察に連れて行くなどして入所を促しました。運動は戦後まで続き、長島愛生園には、180人以上が隔離されました。この視察研修が人権侵害や差別の解消に向けて考える機会になれば嬉しく思います。

解放文化祭出展 作品づくり

◆動物クリップづくり(手芸教室)

日 時： 10月 14日(土)
 9:00～10:30

場 所： はばたき人権文化センター

※申し込みは締め切りしました。



◆花の寄せ植え教室

日 時： 10月 23日(月)～27日(金)
 各日 10:00～16:00

(ご都合の良いときにおいでください)

場 所： はばたき人権文化センター

参加費： 1人 300円

申し込み締め切り日： 10月13日(金)

※先着15人



*申し込み・お問い合わせ先 はばたき人権文化センター 電話/FAX： 22-0232

生活で困っていることはありませんか？

家族のこと・お金のこと・就職のこと・将来への不安など、どんなことでもどうぞ悩んでいることがあれば1人で抱えこまずにご相談ください。相談された内容は秘密厳守いたします。はばたき人権文化センターまでご相談ください。



差別落書きや差別発言などに遭遇した場合は、倉吉市人権政策課、又は、最寄りの人権文化センターまでご相談ください。

倉吉市市民生活部人権政策課 Tel0858-22-8130

はばたき人権文化センター Tel0858-22-0232

はばたき人権文化センターだより

はばたき

発行:はばたき人権文化センター
 住所:〒682-0872
 倉吉市福吉町2丁目1514-7
 電話:0858-22-0232(FAX兼)
 E-Mail:habataki@ncn-k.net



10月号 NO.430 (2023年10月1日発行)

主催：福吉解放文化祭実行委員会

第34回

福吉解放文化祭

テーマ「つながろう 人の輪」

日 時： 11月 17日(金) ～ 19日(日)

9:00～17:00 (19日は14:30まで)

会 場： はばたき人権文化センター・福吉児童センター

主な内容： 18日(土)： 11:30～「うどんのおもてなし」(無料)
 13:30～ 人権問題講演会「終活について」
 19日(日)： 11:30～ バザー

コロナ禍の3年間は、新型コロナウイルスの流行と感染予防のため、福吉解放文化祭の開催を断念し、炎を絶やすまいと「はばたきまつり」を実施してきました。ようやく「解放文化祭」を「今年はやろう」との気運が起こり開催いたします。コロナ禍で急速に少子高齢化がすすむ中、近所づきあいは減少し、地域のつながりを希薄にしていきました。また、周囲に対して無関心になったような気がします。地域のつながりが弱くなれば、安心・安全な生活環境の崩壊が危惧され、地域の自治機能や防災力が維持できなくなることが想定されます。

今年、福吉解放文化祭を開催することで、①交流する「喜び」、②人と楽しみを共有する「喜び」、③お互いに感謝し合う「喜び」を分かち合うことで、人の輪を繋げていきましょう。地域のコミュニティの再生、強化をしていくことをめざして、地域で共に暮らしているという実感と連帯を深め、地域のつながりの中で、自らは何ができるのか考え、自分たちにとって「住み続けたい魅力的なまち」にしていきたいと思います。次世代の子どもたちへ思いを伝えていきましょう。

≪9月 こんなことしました≫



12日(火)スマホ教室：「ネット詐欺の防止」について学びました。
「例えば、ネット通販サイトなどの偽サイトは、たった「.」が違っただけでアドレスの正否が人では見極めることが難しいのです。セキュリティーのアプリケーションを入れ、防御機能を強化する必要があります。」と教えていただきました。
少ない人数でしたが、いろいろな質問をして充実した学習になりました。

7日(木)にこにこサロン： 解放文化祭に向けての作品づくり①
個人の作品づくりをしました。次回からは共同作品づくりをします。
みなさん楽しみながら作りましょう。



21日(木)にこにこサロン： 健康チェック(明倫・小鴨包括支援センターに来ていただきました)
握力測定、身長・体重測定、片足立ち、血圧測定等、健康チェックをしました。
「去年より背がちんだわ」「こんなに握力すくないかえ、おかしいな」。



次回に結果を教えてください。
その後、みんなで大好きなおはぎづくりをしました。
「お彼岸のおはぎ」 美味しいですね。



<10月のおすすめの本>



「虹のむこうには」 為さん・大作さんの言葉

著者：小林 秀幸

三重テレビ放送に勤める著者が、取材でハンセン病回復者と出会ってから約20年。ふたつの国立ハンセン病療養所がある長島（岡山県瀬戸内市）を舞台に、入所者の証言、島に架かる橋が果たす役割、入所者の帰郷の現状、市民によるフィールドワーク、元患者家族の人生被害、新型コロナウイルスとハンセン病の関係など、入居者の皆さんとの深い交流を通じて考察した、「ハンセン病問題をめぐる”出会い・別れ”」の記録です。

全国のハンセン病療養所で暮らす入所者の平均年齢は87歳に達しています。(2021年5月厚生労働省調べ)。ハンセン病に対する偏見・差別で苦しんだ人々が、日本からおられなくなる日は、そう遠くではありせん。それで終わりでしょうか、「私たちには、今、知る自由があります」。”橋”を渡り、ハンセン病問題に目を向けてみませんか。正しく知り、次世代へ学んだことを伝えつなぐために…。

「小学生のためのスマホ・SNS 防犯ガイド」

監修：佐々木 成二（元埼玉県警捜査一課刑事） 出版社：主婦と生活社
スマートフォンや SNS は、人と人をつなぐとても便利で大切な道具の一つです。

しかし、そのことを逆手にとった犯罪や嫌がらせは後を絶たず、いつ自分がトラブルに巻き込まれてもおかしくありません。

小学生のうちから知っていてほしい Pad/スマートフォン・SNS の使い方。自分自身を守るためにも知って楽しい、知らないと怖い Pad/スマートフォンと SNS の防犯知識です。「正しい情報の見極め方」や「オンラインゲームも注意しながら楽しもう！」など、様々なスマートフォンの使い方や注意点を教えています。便利なものには、リスクは付きものです。知ることが重要！



すべての人に暮らしやすい環境(生活空間)づくりをめざして

カラーユニバーサルデザインについて



【ユニバーサルデザイン】

ユニバーサルデザインとは、1980年代にアメリカで誕生した言葉で、年齢・性別・能力・言語など、人の多様性に配慮した「できるだけ多くの人が利用可能な、すべての人のためのデザイン」のこと。

特にカラーユニバーサルデザインとは、多様な色覚を持つ人に配慮して、すべての人に情報が正確に伝わるように配慮されたデザイン。

<ユニバーサルデザインの7原則>

- ①公平性…誰でも公平に利用
- ②自由度…人によって使いやすさを選べる
- ③単純性…使い方が簡単
- ④わかりやすさ…必要な情報がすぐに理解できる
- ⑤安全性…ミスや危険につながらない
- ⑥体への負担の少なさ…無理な姿勢や力が必要ない
- ⑦スペースの確保…使いやすい十分な大きさ・広さ

<カラーユニバーサルデザインのポイント>

1. できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ。
2. 色を見分けにくい人にも形の差などで情報が伝わるようにする。
3. 色名を添えるなど、色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする。

色の見え方の異なる人(色弱者)は、日本人男性は20人に1人、女性は500人に1人と言われ日本では約320万人、世界では約2億人と言われています。白内障など、老化に伴う目の疾患の国内総患者数は90万人を超え、65歳以上が約90%を占め、疾患が原因で視力が低下するロービジョンの方も数十万人が存在しています。



誰にでも優しい色使いの配慮が必要

<色覚検査の歴史>

- 1953(昭和33)年…毎年1回色神検査
- 1973(昭和48)年…小1・4、中1、高1定期健康診断
- 1993(平成5)年…進学調査書から色覚項目削除
- 1995(平成7)年…小4のみに定期健康診断
- 2002(平成14)年…検査廃止
- 2003(平成15)年…希望者に任意検査

<色覚検査が義務で無くなったことで>

・教師・保護者の関心が薄れ、自分の異常に気づくことなく過ごし、進学就職の際に直面し困惑する等問題が生じていることが判明。← 2010(平成22)～2011(平成23)年度日本眼科医会調査

例えば… 家庭：焼肉をしたら、生肉ばかり取って食べていた。探し物が不得意。

学校：黒板に赤チョークの字を読み飛ばした。色遣いが違うことでいじめにあった。

進学・就職：自衛官・警察官・消防士・航空、船舶、鉄道、バスなどの交通関係は、色覚制限が残っている。美容専門学校や調理学校入学願書の健康診断書に色覚異常の有無の欄があった。フグ調理師の資格取得には色覚制限有り。生ものの鮮度、焼き魚の等では不利。

色覚バリアフリーは時代の潮流

人間の色の見え方は一様ではありません。

新聞、一般書籍、地図などがカラーになり、公共施設でもカラフルな説明表示であふれています。現代社会は、色があふれていることで、情報が読み取れず不便さを感じ、昔より暮らしにくいこともあります。伝えたい情報の優先順位を考え、情報の受け手が感じる印象や心理を考慮して「整理された見やすいデザイン」は、すべての人にとって価値あるものです。

鳥取県では、「ユニバーサルデザイン」の推進・普及に努め、色弱者に配慮し、情報を正しく伝えるための指針として「カラーユニバーサルデザインガイドブック」を作成しています。

当たり前には色が分かる人が、少数派の人の状態を理解することが重要です！
社会の中で、少数派が声をあげられる状態を創ることが重要です！

